

光市医師会報

平成9年1月号

No. 291



寒行入水

光市医師会

年 頭 の 挨拶

医師会長 近藤 龍一

あけましておめでとう御座居ます。皆様それぞれよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうか実りある良い年であります様心から願っております。

さて、昨年末より大変紛糾いたしました医療費問題も、どうやら日医案に落ち着いた模様です。ただし、薬剤の負担が1日1剤につき15円のペンディングが残っていますので、これがどのように決着するのかももう少し経過を見守る必要があります。それにしても、いとも安易に国民に負担を押しつける政府のやり方には激しい怒りを憶えます。厚生省は以前から自己負担は全て2割に統一すると主張していました。今度社保本人の2割負担は実現しそうですが、社保家族、国保の3割負担はそのまま類被りで知らぬ顔です。老人の負担が2割にならないからという理屈なのかもしれませんが、それなら少くとも社保家族は2割に軽減しなくては筋が通りません。日医もこの点を全く追求しないのが不思議です。

又、医療費の自己負担の増大を国民に求める前に、厚生省にはやるべきことが山のようにある筈です。7万人以上にもものぼる役人数の削減、不要な国立機関の整理、500以上もの公益法人の廃止、民営化などこれらを実現するだけで、簡単に医療費の赤字は解消するはずで、これらのことを十分に行った上で、尚かつ赤字が続くようならその時国民にお願いをするのが筋というものです。あれだけ不祥事が続出しなが

ら厚生省の行政改革は何一つ実現していません。我々は政治家や役人の怠慢を厳しく責めていくべきと思います。

新年早々、少し頭に血が昇りましたが、世界が激動期に入ってから6年経ちましたが、未だ新しい道筋は見えてきません。日本はもとより世界中が混乱の渦中にあります。現在不況の日本と違って好景気のアメリカでは、1973年から賃金が下りはじめ、1993年までの20年間に11%も減少しました。この20年間、賃金の上昇したのは所得上位20%の人たちだけで、下から20~40%の人は10%、最下位の20%は23%も下落がみられたそうです。人々の数は下位の人々の方が圧倒的に多いので、殆んどの人が所得の減少にみまわれたということです。これはアメリカの特殊な事情ではなく、しばらくしてヨーロッパにも同じような現象があらわれています。ただし、ヨーロッパの国々は法律で解雇を厳しく制限しており、賃下げも簡単ではありませんので採用を減らすという形で進んでいます。若者の失業が大きな社会問題になっているのは御承知の通りです。日本にも徐々に影響は現われており、リストラの嵐は御存知の通りです。日本の雇用制度はヨーロッパ型ですので、現在の就職難は不況のせいばかりではないようです。ところでアメリカをはじめヨーロッパの国々で賃金の下落がつづいていますが、国のGDPは上昇しています。アメリカではこの20年間に国民1人

あたりのGDPは29%増加しています。ではその富はどこへ行ったのでしょうか。驚くべきことに全て老人にまわったということです。急激に増加する老人達の所得の40%は政府に依存し（つまり税金）、65才以上の老人の40%は所得の80%以上を政府に依存しているのです。日本の急速な高齢化が心配されていますが、これは何も日本だけのことでなく、アメリカでも現在4.5人の働く人が1人の年金生活者を支えています。2030年には僅か1.7人で1人を支えなければならなくなります。

私達の社会は人類史上初めて、経済活動に参加せず、医療などのコストのかかる社会サービスを必要とし、所得の多くを政府に依存する高齢者、しかも豊かで投票権をもつ高齢者を大量にかかえることとなります。現在、税金と社会保障費を合せた国民負担率はスウェーデンで約70%、フランス、ドイツで50%強、日本で30数%ですが、各国が今のままで何もしないでいると、2013年には100%になるそうです。

そうなると国家は破滅ですが、老人問題の圧力はそれ程苛酷ということでしょう。当然何とかしなければならぬわけですが、今後若者と老人の世代間戦争を含めて大変な混乱と耐え難い痛みを伴うことになりそうです。

我々も、今後医療費の大巾な値上げは最早ないと思わなければなりません。それどころか切下げを覚悟して、その為の準備を始めなければならないのかも知れません。

さて、今年は丑歳ですが、ウシは紀元前6000年頃から家畜として飼われていたようです。日本には弥生時代に渡来したら

く、遺跡からウシの骨や歯が出土しています。現在世界には乳用種、乳肉兼用種、肉用種、役用種など役200種ぐらいいるようですがはっきりした数は判らないそうです。古代社会ではウシは尊い動物としてあがめられていたらしく、豊作祈願の祭りにウシが登場します。また、ウシのつく諺も多く、以下に列挙しますので意味を考えてみてください。

(1)商は牛のよだれ (2)牛を売って牛にならず (3)牛を売って馬を買う (4)牛追い牛に追われる (5)牛を馬に乗り換える (6)牛と呼び馬と呼ぶ (7)牛蹄いて馬応ぜず (8)牛に汗して棟に充つ(汗牛充棟) (9)牛に対して琴を弾ず (10)牛に引かれて善光寺詣り (11)牛の小便十八町 (12)牛の角蜂が刺す (13)牛はいなき馬は哮え (14)牛は牛づれ馬は馬づれ (15)牛飲馬食 (16)牛刀をもって鶏を割く (17)牛馬に踏れぬ (18)九牛の一毛 (19)牛耳を執る。

本年も皆様にとって良い年でありますようお願いいたします。



〈会員広場〉(学会紹介)

日本救急医学会(平成8年10月7~9日 横浜)

河村 康明

今回は日本救急医学会を紹介します。この学会の特徴は3つの部会に分かれている事で医師部会・看護部会・救急隊員部会から構成されています。勿論、これらの合同部会もありますが、我々は主に医師部会に出席する事が多い様です。

もう一つの特徴は他の学会ではあまり見受けられませんが、緊急シンポジウムや緊急ワークショップなど学会の性格上、今すぐにでも必要と思われるものを会長の自由裁量で行なわれている事でしょう。この数年は天変地異や予想もしない大事件が次々に発生しているので、話題には事欠かない様です。昨年の学会は演題の半分が阪神大震災とサリン中毒でしめられていましたが、今学会では大災害時の救援システム作りが主要演題としてとりあげられています。又、学会の3ヶ月前に発生した大腸菌O-157に関する緊急ワークショップも丁度、行なわれていました。その中から、2・3の要点を述べてみます。

1. 大災害時の救援システム作り

東北地方などではすでに10年以上前よりシステム作りは行なわれている。大災害の対応は県単位ではとても無理とのことで

山口県での対応はよく判りませんが、中国地区での対話が重要の様です。又、船がかなり役立つとの事であり、光の地理的条

件も考えれば、大分県・愛媛県との連絡も必要と考えられる。阪神大震災当日、大阪地区の救急医療従事者は待機状態であったが、兵庫県からは何ら連絡はなかった。行政と通信網の両面から改善が叫ばれている。

写真1~3は会場の展示品の一部です。
(写真1) 15分で使用可能となるノルウェー製の手術可能のエアーテント。定価670万円

(写真2) 日本製高規格救急車(ほとんどの救急処置が可能)

(写真3) 左は戦闘用、右は救急処置用の化学防護衣

2. 大腸菌O-157について

司会者はかなり、リアルな質問をしていた。「ステーキはレアはダメだと言うが?」

Ans.「そんな事はない、ただしハンバーグは注意を要する」(この時期、東京のファミリーレストランでは生野菜はなく、ステーキもミディアム以上であった。)
「自分の子供ならば抗菌剤を使うか、どうか」

Ans.「自分の子供が患者ならば多分、使う」とパネラーは答える。

3. 臓器移植に関するパンフレット

これは心臓病学会の時にアンケート調査の一部として配布されたものですがそろそろ頭の中に入れておかねばならないでしょう。

▶写真1



▼写真2



▶写真3



▼臓器移植に関するパンフレット

いのちへの やさしさとおもいやり

1. 臓器移植は？

臓器移植は、重い病気で苦しむ人達へのあなたのやさしさとおもいやりに支えられています。
臓器提供は善意の無償奉仕です。

2. 臓器移植の成績は？

最近のデータでは移植後5年間生存する割合は、腎臓では80%、心臓では73%、肝臓では64%
となっています。そのような患者さんに心臓や肝臓を移植しない場合には5年後に生きている可能性が
ゼロであることを考えると、いずれも大変すぐれた治療成績といえましょう。

3. 臓器提供がなぜ必要なのでしょう？

人工臓器の開発が進められています。が、実用化には遠く、今のところ臓器移植だけが末期臓器不全に苦しむ人達に新しい命と豊かな生活を与えることができる手段といえます。

4. 臓器提供するために必要なことは？

臓器提供の意思をあなたのご家族に伝えておいて下さい。そしてカードに氏名を記入して持ち歩いていただければ結構です。このカードは、あらゆる臓器移植を対象としたカードです。腎バンクやアイバンクなどのカードをすでに所有されている方でもお持ちになれます。

5. 臓器提供の実際は？

臓器が提供されるのは、あなたが亡くなった時点で、ご家族が提供を承諾された場合に限りです。

6. 移植ネットワークの役割は？

移植ネットワークとは臓器提供のお申し出があったときに、待機中の患者さんの中から最も適した人をすばやく選び出し、臓器を速やかに送る働きをします。

7. 臓器提供の費用などは？

あなたやご家族には提供するための費用負担はありません。

カードに関するお問い合わせ先

日本心臓財団助成研究「意思表示カード配布の意義と効果に関する研究」

責任者：久留米大学医療センター病院長 戸嶋 裕徳

Tel:0942-22-6527 Fax:0942-22-6700

いのちへのやさしさとおもいやり



カード発行元

関東ネット Tel.03-3359-8696
 中部ネット Tel.052-323-7177
 近畿ネット Tel.06-879-3062
 西日本ネット Tel.092-633-4770

意思表示カード

私は脳死後、マルで囲んだ臓器を提供します。
 心臓・肝臓・肺・膵臓・腎臓

私は心臓停止後、マルで囲んだ臓器を提供します。
 角膜・腎臓・皮膚・骨

私は臓器の提供をしません。

署名 _____ 年 月 日

12 月度 月間行事

日	行 事	場 所
1	光市医師会員・職員の懇親慰安旅行	下関市長府
3	レントゲン勉強会	医師会事務局
11	12月定例理事会	医師会事務局
13	心電図研究会	光商工会館
17	光市医師会忘年会	金久旅館

12月定例理事会

日時：12月11日(水) 午後7時30分～

場所：医師会事務局

出席者：近藤、前田、河村、藤原
光武、松村、赤崎

議題：

- 1) 医師会長会議の報告 (近藤会長)
- 2) 保険サービス評価支援地域委員会の報告 (吉村理事)
- 3) 弔慰金について (近藤会長)
B会員の弔慰金の取扱いについて
- 4) 緊急時医師の急募の件 (河村理事)
- 5) 永年勤続者表彰に係る会計報告 (河村理事)

理事会了承

- 6) 光市医師会員・職員慰安旅行の収支について (河村理事)

理事会了承

- 7) 一般会計に150万円借入の件(12月) (前田副会長)

理事会了承

- 8) 新年互礼会の件ー1月28日を予定
- 9) 医師会従業員ボーナスの件

勉強会

心電図研究会(第102回)

光市・下松医師会合同

日時：12月13日(金) 午後7時30分～

場所：光商工会館

出席者：11名

講師：河野隆任先生

症例：

- 1) 65才、♂、(主訴)左上腹部痛、冷汗、(診断)WPW+下壁梗塞
- 2) 52才、♀、(主訴)動悸、(診断)潜在性WPWを伴った頻脈
- 3) 82才、♀、(主訴)左背部痛、(診断)大動脈解離

レントゲン勉強会(第15回)

日時：12月3日(火) 午後7時～

場所：医師会事務局

出席者：7名

講師：徳山中央病院 岡本安定先生

光医歯会忘年ゴルフコンペ成績

日時：平成8年12月23日(祝日)

場所：周南カントリークラブ

氏名	OUT	IN	GROSS	H.D.	NET	順位
守田	45	46	91	15	76	優勝
森本	46	43	89	9	80	準優勝
藤村	46	47	93	11	82	3位
南	59	53	112	29	83	4位
兼清	44	55	99	14	85	5位
前田	50	53	103	16	87	6位
佃	57	62	119	32	87	7位
諏訪	49	54	103	15	88	8位
光武	47	59	106	11	95	9位
松村	61	60	121	21	100	10位
藤本	66	65	131	22	109	11位
清水	72	70	142	29	113	12位

光市医師会忘年会

日時：12月19日(木) 午後6時30分～
出席者：29名

場所：金久旅館

近藤会長挨拶

本日はお寒い中をお集りいただきまして誠に有難うございます。この席に板垣先生のお姿が見えないという事を大変悲しく思います。また皆様方の中にも、ご親戚なり身内の方あるいは知人の方を亡くされて、大変淋しい思いをしている方も多いたと思います。おくやみ申し上げます。今年も医師会員の3人の先生方が体調をくずされて、それぞれ手術をされました。幸いにすっかり元気に回復されておりますけれども、これから寒さもきびしくなりますので、どうか皆さん呉々もお身体に気をつけられるようお願い致します。

もう枕詞になっておりまして、何回も言うのは気がひけますが、医療界を取り巻く状況というものもものすごく厳しいものになっております。せんだって日医から署名の依頼がありまして、皆さんご協力いただきまして誠に有難うございました。約3百万人の署名が全国で集ったそうで、その甲斐もあったのでしょうか、例の老人の定率負担および薬剤の定率負担というのは、つぶれてしまってそれ相応の成果がございました。但しその代わりに1回につき500円の負担と薬剤の1剤につき1日15円の負担というのが浮上してきておりますので、それがどうなるか油断ができない状況にあります。もうしばらく状況を見てみないとわからないと思いますけれども、いずれにい

たしましても世界的にみまして、老人問題というのは誠に重大な問題でありまして、この対応を誤ると国がつぶれるという状態が来る、どこの国でも懸命になって福祉と医療の切り下げをやっております。但し老人の方々の増加によって、どうもすっきりといけないので苦しいという事ようです。

日本はこれから本格的な高齢化社会にはなりますから、福祉事業の切り下げというのはどんどん実行されるだろうと思います。今年度はなんとかしのげましても、2～3年すると必ずまた出て来て悪くなる一方である事は間違いないという事でございます。今迄通りの事が今迄通りのように世の中が進んで行く事は間違いであろうと思いますので、どうかその辺を皆さんお考えになられていただきたいと思ひます。

またいろいろ詳しい事は新年のご挨拶の中で申し述べますけれども、気の減るような話しは今日は忘れていただいて、おおいに飲まれて、今年のうさを忘れて来年のまた新しい年を迎えるよすがと思ひます。

本日は粗酒粗肴でございますけれども、皆様方、心おきなく飲んで御歓談いただきたいと思ひます。どうも有難うございました。

田中先生に古希のお祝い

田中信彦先生が、古希をむかえられ、記念品を贈呈しお祝ひした。



光市医師会会員・職員の懇親慰安旅行

場 所：長府の古き街並み（乃木將軍宅・高杉晋作挙兵の功山寺などと
新しい海峡メッセ（海峡ユメタワー）の見学

日 時：12月1日(日)

（竹中医院） 藤井 紀美江・岡本 誉里子

真冬並みの寒さとなった12月1日。私達は長府の町へとバスを走らせました。「晴れてよかったね」なんて束の間。徳山東インター付近から、ちらほら雪が…それでも雪が珍しくまだまだ余裕の笑顔。佐波川SAで休憩、もうここでは吹雪状態。あの笑顔はどこへいったのでしょうか。10分程度の休憩も終わりバスは走り出しましたが、トラブルです。美東町SA手前で事故発生。渋滞が続き、スリップした車が止まっています。このまま長府の町に着く事が出来るのが不安でしたが、ヤッター無事到着です。しかし、雪はやんでいません。ビニール傘も売り切れで1本もありません。このまま長府の町散策の始まりです。私達を案内して下さったボランティアの方は、昔中学校の教師をしておられた70才の女性でした。この方の説明を聞きながら壇貝川に沿って歩き出しました。この川は、春には菖蒲が咲き夏には螢が飛び交うそうです。笑山寺を通り過ぎ石段を登ると1つ目の目的地、功山寺の山門が木々の陰から姿を現わしました。ここは、夏は5℃気温が低く冬は5℃気温が高くなるそうですが、今日はやっぱり寒かったです。境内には騎乗姿の高杉晋作像がありました。功山寺を後にして坂道を降りて行くと、遠くに海が見えてきます。ぼんやりとてしたが満珠、千珠島が見

えました。2つ目の目的地は乃木神社です。その間の彼女のお話は面白く「森進一は私の教え子だった。」とか、いつの間にか、古江小路と呼ばれる土塀の続く通りを歩いていました。ここに菅家長屋門があります。これは代々藩待医として遇された菅家の屋敷で元厚生大臣の菅さんとは全く関係ないと説明がありました。乃木神社に着きました。明治天皇に殉死した明治時代の武人乃木希典大将と静子夫人が、祭ってあります。境内の乃木旧邸は、少年時代を過ごした所で一家は、ここに明治7年までの16年間住んでいて、その生活は貧乏のどん底だったそうです。隣接の記念館には、数々の遺品が展示されてありました。短かい時間での散策も彼女のお陰でとても楽しく過ごす事が出来、感謝してます。今でも、目をつぶるとあの町並みが、はっきりと浮んできます。そして、道端に赤や黄色の紅葉が重なりあい、その上に雪が溶け、それが時々光っているのが綺麗で2つの季節を味わう事ができ、収穫の多い散策でした。約1時間30分。長府の町を後にして昼食です。もう、おなかペコペコ。ふぐ料理が私達を待っているぞー。“ふぐ料理 喜多川”で昼食をおなか一杯食べ終わり、次の名勝、下関海峡ゆめタワーへと向い初めて見るタワーの大きさにバスの中から目を躍らせて

しまいました。バスを降り、中に入って見るとそれはもう観光客の行列。行列。行列。待つこと30分余。展望室へとエレベーター30Fまで、たったの70秒という速さで上り着くと、そこには、360度の大パノラマが繰り広げられ東に関門橋・火の山、南には、あの有名な宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘が行なわれたという巖流島等々を見る事が出来ます。晴れていればもう少し遠くまで見れたかも?! 今度は、夜のライトアップされたタワーを、デートコースにしたいなあーなんて思ったりして… 午後3時になり下関市を後にして3台のバスは帰路へと向い無事にこの旅を終える事が出来ました。

日帰りの旅でしたが、今日1日を有意義に過ごす事が出来、楽しい思い出の一つを作らせて頂き感謝しております。

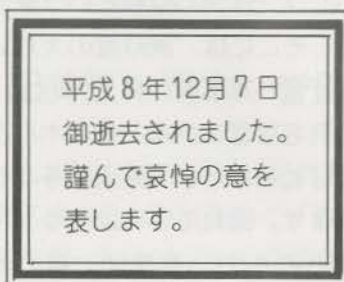
担当である河村先生ならびに、光医師会の方々には大変お世話になり有難うございました。



板垣省三先生死去



弔



辞

光市立病院副院長 濃川正信

板垣先生のご霊前に、つつしんで哀悼の意をささげます。先生、今ここに、お別れの言葉を述べなければならないことは、まことに心痛む思いがします。あの晴れやかなお顔、そして短い言葉の中に皮肉ともジョークとも取れるお話しぶり、ややうつむきかげんで、歩幅短く歩かれる姿が目に見え、今はもう、私たちの世界から、遠くへ離れていってしまわれました。これがまぎれもない現実がと申しますと、人生の無常を痛感せざるをえません。

かえりみますに、先生との出会いは18年前のことでした。わたしが当地に赴任したころは、当病院は光市民病院と称していましたが、そこに1年前より板垣先生がご活躍しておられました。そのころの医局の話題といえば、先生の博士論文の心電図が下火になった話とか、自分は気短な性格で、大学病院で大喧嘩をした話も出ていま

した。初心者ゴルフ、マージャン、ヘボ囲碁、テニス等に次々と顔を出されましたし、趣味の写真撮影、山登りにも活躍されました。院長になられてからは“私の板垣”ともいわれるほどで、大声を上げたり、叱咤されることは少なかったように思います。幸いにも先生のよろしき采配を得て、市立病院の職員が一丸となって汗水垂らして働きまして、自治大臣表彰病院の栄誉を浴することができました。

4年前御自分の病気を自ら診断され、数度の手術を受けられましたが、この間医師としての知識と、自らの生命への執着とはさまにあって、大いに悩み続けられ、とうとう倒られる前日まで仕事をされてきました。県内にも数少ない黒字病院、しかも永い間維持しています。先生の、病院経営の基盤確立に尽された功績は偉大なものがあります。この残された貴重な遺産を基



に、我々は光市立病院をますます発展させることを誓い、先生への鎮魂の言葉といたします。

さようなら、板垣先生。どうぞ安らかに



お眠りくださいますよう。

平成8年12月10日

(12月10日の告別式の時の弔辞より)

板垣省三先生を偲んで

富 恵 哲

葬儀に出席して彼の遺影を眺めると、彼が光に居た十八年間の出来事、思い出の数々が走馬灯の如く浮かんで来ます。

彼とは、山大の先輩、後輩の仲ですが会ったことはありません。偶々、支払基金の審査員の頃、前県医師会長の藤野先生が基金で「今度、板垣君が光市民病院へ行きますから宜敷く、何かあったら面倒を見て下さいよ。良く勉強する男で、頼りになりますよ」と彼の事を話してくれました。彼が赴任、挨拶に来ました。初対面は、野武士の様な男だと感じた事を思い起こします。

当時、光市民病院の名前で医師も少なく、院長の本庶元教授の下で皆、頑張っている。その中で、板垣先生には随分と迷惑

を掛け、光医師会との間を取り持って頂きました。病診連携という言葉の出る前、すでに光市立病院と医師会員との関係はスムーズであったと思って居ます。なるべく新しい事を開業医に教えてくれる様に、紹介した患者はデータを着けて帰してくれる様に頼んだ所、可能な限りそれを実行してくれました。年寄りの多い医師会員の深夜の救急は大変で、これ又、嫌な顔をせず夜中の診療をやってくれた事を心より感謝し度いと思います。

私自身、彼が来て数年経って、喘息様の発作に悩まされ、ステロイドを服用する破目になりました。広大、西本教授を亀田君から紹介して頂き診察を受けました。細気

管支炎と診断され、主治医を誰にするかで、光市立病院に板垣先生が居ると告げた所、「板垣君ですか」と言って紹介状をしたゝめてくれました。板垣先生の名前を知っている様なので、彼は色々な仕事をしているのだなと、彼の勉強振りに敬意を抱いた事を思い出します。

先輩の主治医は大変であったろうと推察しています。昔の記録を眺めると自分自身、随分勝手な治療を行って居た様で、朝から、咳が出るなど思いつく、我慢して夕方まで診療、終了途端に重積発作で横になれず、立ったまま、酸素吸入をやり乍ら点滴、慌てゝ板垣先生へ往診を頼む始末。「先生、余り無理をせぬように。入院して頂きます」と、夜、救急車で病院へ担ぎ込まれた事があります。夜中、何回も病室に顔を見せてくれたのに感服しました。2~3日で落ちつく、病院を抜け出し家で、患者を診療する生活を数回繰り返しました。その都度、彼に往診して貰いました。先輩面をして、診に来いと云った様で申し訳ないと思います。今でも吾が家の電話の上に、光市立病院、虹ヶ丘の先生のお宅、宇部のお宅の三ヶ所の電話番号が書いてあります。家内は、彼を宇部まで電話で探した事を話していました。「本当に静かな、優しい先生」と家内も娘も彼の大ファンで、娘に、「お父さんも、少しは板垣先生を見習いなさい」何時も云われて居ました。

ある時、同窓の先輩が、板垣君が Depressive でおかしいと云う噂が立っているとの事で、慌てゝ院長室を訪れ、その真偽を確かめた事があります。本庶元教授の後を継いで院長職がこたえたのかも知れ

ません。その後、一度、「先生、夜、伺っても良いですか?」と電話を掛け尋ねて来て、「もう疲れました」とぼやいた事があります。「自分で思った通りやれば良い。今の市立病院は、君で持っている様なもの。大丈夫、他人の思惑なんか気にせず、やり度い様にやれ」と励まして、白ワインを一本渡して、たまには少し飲む様にすすめた事を思い出します。(彼は酒は飲めず、白ワインを少し嗜む事をその時知りました)。子供さんを宇部に残しての単身赴任の生活は大変だったのでしょう。

時々、喘息発作で入院させて頂きましたが、最近は発作も出ず、ピークフローを計り乍ら薬の使用を相談していました。全く、彼にとっては困った患者であり、主治医としても大変であったであろうと心からお詫びして、お礼を申し上げます。

四年前、徳山中央病院で胃切をしたと聞いて、お見舞いに行きました。「小さな癌が出来たので切りました」と淡々と喋って居たのが印象的でした。食物の摂取が充分でなかったのでしょうか、痩せたまゝなのが気の毒でした。その後、「もう入院患者を診るのは止めて外来だけにしました。一寸淋しいですが」と診察室を訪れた時に喋っていました。「余り無理をしない様に」と云ったものの、彼の外来の終了は、午後2時過ぎでした。患者に慕われて居り、爺さんに捕まえられて、ゆっくり説明している姿を思い出します。翌5年に、イレウスの手術を行ったとの事で、徳山中央病院を訪れました。「単に癒着だけで、これが癒れば、又食べられますよ」と喋っていました。

今でも思い出す事は、晝休みに連絡もな

くぼそと来て、「本を作りましたので貰って下さい」と“検診、人間ドック項目別査定便覧”を置いて帰って行きました。表紙の裏に、謹呈、富恵先生、板垣、とサインが書いていました。今も外来の私の机に載っています。赤い線を引いた高血圧治療の項に、加工食品の塩分の量。福神漬30g中 2.3g、きゅうりのぬかみそ漬30g中 0.8g含有と記してあります。患者が食卓で小皿に取る漬物の量は、およそ30gとして、その塩分の含量を書いたものです。普通は、100g中幾らと書くと思いますが、彼は臨床医の為の目安を示してくれたものと感服しました。又、高血圧患者がリンゴ2~3ヶを一度に食べて、K、Na、の関係で、低血圧になったとの記載も、外科医の私にとって目新しい事でした。

その後、彼は段々痩せて行く様で、会う度に余り無理をするなど云いましたが、釈迦に説法で、弱った体に鞭打っての診療であったのでしょう。

本年、九月始め、患者を小児科へ紹介した折り、横山先生から、「院長が入院していますよ」との連絡で慌て、顔を見に行きました。さすがに、痩せ細り、疲れた様で、「飯が入らずとうとう入院させられました」と話し、「食道のスパズムスで、ものが通らないのです」と云っていました。癌と知っても私達に心配を掛けまいと明るく振舞って居たのでしょう。暫く話していましたが、何故か趣味の話となり、彼が足を運んだ六甲山の植物の話が出て来ました。六甲の植物の写真を集めた事を喜びに話し、奥さんを同伴して何回か出掛けた事を話していました。彼に登山や、植物の写真撮影の趣

味があった事を初めて知りました。もう一度行き度いとの言葉、さすがに可哀想でした。私が九月の連休、台北で小学校のクラス会をやる話をした所、「先生、体の動く間好きな事をなさいよ」と旅行をすすめていました。私の好きなタイの旅行を色々話し、癒ったら又行けると励ましたのですが、彼はもう行けないと思ったのでしょうか。淋しそうでした。数日して顔を見に出掛けた所、胸腔にドレーンが入って居り、血性の液が出ていました。血性だと“癌”である事が確実なのに、それに触れず、「水が貯まりましてね。苦しいので抜いて貰いました」と喋っていました。次に顔を見に行った折りには、気管チューブが挿入され、私の言葉に微かにうなづくだけでした。可哀想に見て居られません。再び行った時にはもう意識が無く、レスピレーターをつけられて眠ってました。苦しいだろうと思いつ、彼の部屋から出て、赤崎先生と「苦しいだろうな」と話合ったのが最後の面会でした。その後、暫くして、亡くなられたとの報せを頂きました。

葬儀に出席、彼の柩を見送り、感無量でした。

十八年間の^{つと}交際を振り返って、病診連携で医師会の為に随分盡して頂いた事、勉強家で色々な事を教えて頂いた事、主治医として色々面倒をかけた事等々、改めて思い起こして感謝で一杯です。「僕一人で光市立病院を立派にしたのではありません。濃川、赤崎、横山、その他の連中に随分助けて貰いました。僕の替りに米沢に患者を紹介して下さい。あいつは僕より勉強しています」と笑い乍ら部下を賞めて居たのが印象的で

した。先生の意を継いで、皆が光市立病院を盛りあげてくれるでしょう。

すばらしい男を亡くしました。彼を偲ん

での私の言葉です。

板垣先生、安らかにお眠り下さい。

合掌

板垣先生の思いで

赤崎信正

先生のお名前は、同郷の先輩でもあり、また、母親同士が婦人会での知り合いということで、中学生の時よりお聞きしていました。

先生に初めて、お会いしたのは、私が、専門3年生（昭和42年）の終り頃、第2内科の脂質研究班の研究室でお会いしたと記憶しています。

当時の先生は筆頭助手で、肺班のリーダーで精力的に研究をされていたので、先生の近くによると殺気を感じ怖いくらいでした。また、当時の先生の顔は現在の先生とほとんどが違っておられません。翌年、先生は国立下関病院、町立吉田病院に赴任されましたので、当分お会いする機会はありませんでしたが、12年後に、ある縁で光市立病院でお会いし、先生にその事をいうと、わしは昔より老け顔で老壮？じゃけ一顔が昔より殆ど変らなくいまの方が若くなったといわれていました。

先生は病気をされる3年半前までは、よく医局で冗談をいわれていましたが、手術後は院長室に引き込まれ、いろいろな板垣ノートをつくられていました。

先生の趣味はなかなか高尚で山歩き、クラシック音楽、特徴的な女性的な字で書かれる板垣ノートの作成です。私は先生の趣味と全く逆で、運動部出身なので一度もお付き合いできませんでした。

古い頃の病院では昼休み時間によくテニスをしていました。テニスに先生を誘うとインターン時代の頃、田園調布の豪邸の中でテニス楽しんでいるのを尻目に国立東二病院に通勤した思いでをはなされ、金持ちのスポーツをするほどの身分ではなからうにと私はよくからかわれました。

先生は昭和55年ごろ、勤務後に、消化器内科、小児科、のドクターを集めて心電図の勉強会をしていただきました。



先生のお得意の項目は心筋梗塞の経過中の不整脈、及び早期興奮症候群でした。講義の時によく出る言葉は、WPW, LGL, PAT, ケント束、バツハマン束、ウエンケバツハ、Concealed Conduction、と口調のよい言葉が好みで度々、話しにでてまいりました。今となっては、先生の講義は私にとって貴重な財産で一番の懐かしい思い出になっています。

さて、学問以外の雑談では、ヨーロッパでの学会の話が思いだされます。ドイツで同行の先生とレストランに入られたとき、性格的にこまめで几帳面な先生は旅行の雑誌にのっているドイツ語を暗記されていき、ウエイトレスに料理を注文されたようですが、さっぱり通用せず、同行の先生の簡単な手まねとキムチツバイの言葉が通用し料理がでてきたと苦笑されていました。

最後に、先生には勤務を初めて貴重な手帳をいただきました。(写真のもの) その内容は例の特徴的な字でかかれた循環器検査

及び結果、診断、治療、心電図の所見が小さく、びっしり書かれており、先生の40年の汗の結晶です。特に、心筋梗塞の事が詳しく書いてあり、どの本にもまけない内容です。

私にとっては、お金にはかえられない貴重な手帳で、家宝にして机の引き出しに大事にしています。

光医師会の心電図の研究会にも機会をみてスライドにして御披露申し上げたいとおもいます。

平成8年9月初めに院長室にて、先生に休養されるようにとお勧めしたのが最後の会話となりました。

先生は日頃より、元気でばりばり仕事をしたいといわれていましたので、ベッドに横たっておられる先生を拝見するのは失礼と思いお会いしませんでした。いまでも、ソファーに横になり、酸素吸入、点滴をしながらまだ診療を続けなければいけないという臨床家の姿が私の臉に焼き付いています。先生のご冥福をお祈り申し上げます。



▲ふれあい看護のついで
挨拶される先生

▼「検診・人間ドック項目別査定便覧」
出版祝賀会の時の先生



板垣院長を偲んで

光市立病院 総婦長 伊藤 弥生

昨年の8月28日診療中急にお具合が悪くなられ診察を中断されたのが先生にとって最後の診療されるお姿とられました。

昭和52年、光市立病院に赴任されて以来、昼夜、時間を問わず受診される患者、入院患者の診療を続けてこられました。早朝院長室に管理日誌を取りに行くと院長室のソファで休んでおられ、又冬の寒い日などは寝袋に入って眠っておられるときもしばしばでした。ドアをノックしてお返事がありませんので、おはようございます、失礼しますと声をかけドアを開け、忍び足で日誌を持ち帰りながら「ご苦労様です」と心の中でのご挨拶をしたものです。夜間の救急呼出か入院患者の急変にそなえて仮眠しておられたものであります。このように院長は仕事の虫と思われるでしょうが結構趣味は広く、登山、写真、音楽等多忙な中で何時その時間を作られるのかと先生にお伺いしたこともありました。そのときのお返事は「仕事はサボリマンで如何にもやっているように見える努力をしている」といって笑っておられました。病院恒例の登山に私は乗物に弱いため自分の体調が良いときに、ご一緒させて頂きましたのは、平成3年の秋、琴石山へ行ったときでした。院長の足どりが少しづつ遅れ始め、いつもの冗談が少くなり道端の石に腰を下ろして「年を取ったものだ」と弱音が出たりしてそれからの足取りも少し休んでは歩かれ山頂への到着は皆んなより随分と後になってか

らでしたが、以前院長から色々と登られた山の話しを伺っていました私は何んだか先に登って行くには気掛りだし、あまり気を使っていると院長を急き立てるようになってはいけないと思ったりしたことなど、後から考えてみれば、その翌年に手術をされることになられたことを考えれば、ご自分でも気がつかず年のせいだけではなかったのではとっております。音楽も種々のジャンルがお好きでクラシックを初めとし、ラテン音楽、ジャズ、演歌にポップス等々色々な名曲を集めたり、演奏会を聞きに行かれたり、クリスマスなどには、私共独身の若者(?)を呼んで下さり、素晴らしい音楽を聞かせて頂いたことも懐しく心に残っております。

平成4年3月11日早朝事務局長に呼ばれ、院長が手術を受けられ当分の間お休みになられることを聞き一瞬頭の中が空白になったことを覚えております。

手術の経過は順調で退院されてから間もなく診療を開始されました。思うように食事がとれず、今までの食生活との違いに些か戸惑っておられる様子で、空腹時は好物だった食べ物が浮んでくるが食べられず「なんでも食べられていたときは何とも思わなかったが」と体調の回復が期待通りに進まず焦りと不安が交又するご様子でした。

ときに冗談まじりで「糖尿病の食餌療法で煮干一つ何瓦で何カロリーと計算しながら飯を食べて、何がどれだけ変わるのかと

思っていたが、こんな身体になってはうどん1杯とチーズ1コで何カロリー、栄養素は何がどれだけとれたか、後何を食べないといけないかなど、と計算しながら食べる努力をしているからおかしなものだ」と奥歯を噛みしめクスクスと笑っておられたこともありました。

職員の結婚式は多忙な中でも殆ど出席される。この席での主賓のご挨拶がまたユニークで爆笑シリーズ、しかし最後の結びの言葉は「水は方円の器に従う」が多くお好きな言葉のようでした。

院内の職員研修では、心電図の読み方について初歩から始まり多くの講義をして頂きましたが、平成8年8月21日には、院長最後の講演で、その頃各地で起った食中毒0-157についての講義でしたが、今思えば体調も相当お悪いときだったと思います。診療時間を終えられた後の講演でさぞお疲れだったでしょうが、院内では下痢の患者が入院するたびに神経質になっていた時期でもあり多数の職員が参加し院内感染について徹底した指導を受けました。

それから1か月と少し過ぎた8月28日の診療中、体調が悪くなれば外来からやっと歩けるといった足取りでナースに付添われ院長室に入れ、その日が先生最後の診療となってしまいました。

顧みますと、院長と云う立場で病院の多くの職員と入院患者を乗せた光市立病院丸の梶取りは、地域住民への医療に対する要望への対処や職員間のコミュニケーションへの配慮と入院患者の安全への配慮等々、院内外への心配りには多大なご心労もあったと思います。発病以前より各医療分野の

職員のための救急用マニュアル、市立病院在庫薬品集、院内感染マニュアル等々夜遅くワープロで作成され各科毎に配布され随分と役立っております。そうしたことがお好きだったとはいえ、本当に細部に気を配られていらっしやっただと思います。

入院される少し前、「手術してからの4年間は長かった、病気には勝てない」としみじみ云っておられた言葉が耳から離れません。平成8年12月7日が先生とお別れしなければならない日となりました。あれからもう1ヵ月が過ぎようとしておりますが、先生から頂いた数々の思い出、教えを胸に、又先生のこれまでのご苦労に報いるよう濃川院長を先頭に私達はこれからも力を合せて参りたいと思います。先生のご冥福をお祈り申し上げまして筆を擱かせて頂きます。



(さようなら、板垣先生)

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

「寒の内」になりまして、きびしい寒さがつづいております。インフルエンザが蔓延し、体調をくずす人を多くみかけます。

今月号は板垣先生の御逝去という、大変悲しい特別記をのせる事になりました。光市立病院にとっても光市医師会にとっても、大きな柱を失ってしまいました。

私事で恐縮ですが、昨年体調をくずし市立病院へ入院した時、先生が病室に見舞いに来られ「お互に手術した身体で多く食べる事ができませんし、年令を考えて無理はしないようにしましょう。」と、そっと脈をとって行かれました。その時の手のぬくもり、心のぬくもりが今も胸に伝わってまいります。昨年先生が入院された事を聞き、お見舞いに行きましたが、その時も「無理してはいけませんよ。」と再度言われました。苦痛の中でなお相手の気配りをされる、先生の心の大きさに胸をうたれ病室をあとにしました。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

会員と従業員との下関への親睦旅行は、時ならぬ寒波におそわれ驚きました。しかし雪の功山寺もまた違った風情がありました。

今月号には多くの方から原稿をいただきました。有難うございました。なかでも会員以外の、光市立病院・伊藤総婦長さん、竹中医院・藤井さん、岡本さんにご無理をお願いし書いていただきました。お礼申し上げます。（吉村）

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社